

2025年12月23日
住友生命保険相互会社

住友生命「Vitality」に関するウェルビーイング研究を 『Journal of Wellbeing』創刊号に発表

住友生命保険相互会社（取締役 代表執行役社長 高田 幸徳、以下「住友生命」）は、健康増進型保険“住友生命「Vitality」”^{※1}に関する研究について、ウェルビーイング学会が発刊する学会誌『Journal of Wellbeing』^{※2}の創刊号に採録されたことをお知らせします。

住友生命は、日常の健康行動データを活用した行動変容を促進する仕組みの実装と、その成果の検証にいち早く取り組んできました。

本学会誌への採録は、Vitality にお取り組みいただくことが「一人ひとりのより良く生きる＝ウェルビーイング」の向上に寄与する可能性について、専門的見地から一定の評価をいただいたものと言えます。

また、Vitality を通じて得られたデータや知見は、ウェルビーイングについての理論的・実証的な理解を深め、ウェルビーイング向上に向けた理論・手法の構築につながるものに位置付けられたものと考えています。

※1 “住友生命「Vitality」”の詳細は右記 URL をご覧ください。<https://vitality.sumtomolife.co.jp/>

※2 『Journal of Wellbeing』は、ウェルビーイングに関する分野横断的な理論的・実証的研究の成果を広く国内外に発信する、日本および世界において先駆的なウェルビーイング学の学術誌です。詳細は下記 URL をご覧ください。
<https://society-of-wellbeing.jp/journal/>

1. 研究概要

タイトル	ウェルビーイング向上を目指す住友生命「Vitality」の実践と展望
概要	本研究は、これまで住友生命が公表してきた、Vitality 健康プログラム利用者の行動変容および健康アウトカムに関するデータについて、Vitality 健康プログラムの特徴である「行動経済学に基づくインセンティブ設計」との関係を含め、ウェルビーイングの観点から再整理したものです。 具体的には、Vitality 会員へのアンケート調査結果や、Vitality 健康プログラムへの健康増進活動の取組み状況と死亡率・入院率との関連性について分析しました。
主な結果	分析の結果、 <u>Vitality が主観的ウェルビーイングの向上および健康アウトカムの改善につながる可能性がある</u> ことが示されました。
掲載誌	Journal of Wellbeing
著者	山川達弘 (Vitality 戦略部)、濱谷尚志 (新規ビジネス企画部)、藤澤陽介 (データ)

	サイエンスオフィサー)、山田肇(新規ビジネス企画部)、工藤恭平(ブランドコミュニケーション部) ※いずれも住友生命
掲載先	https://society-of-wellbeing.jp/journal/

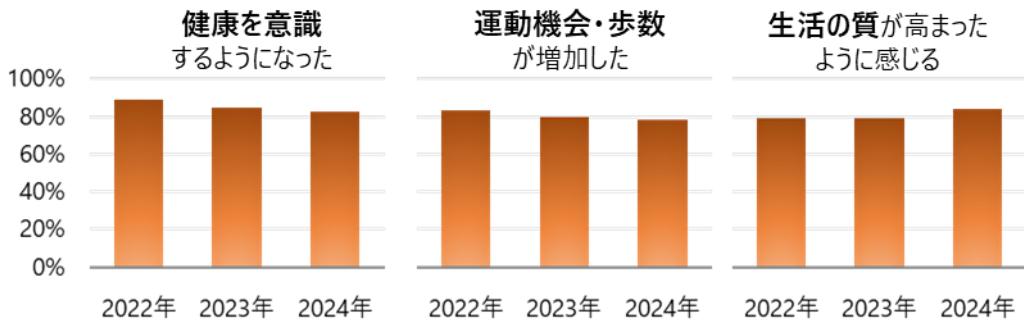
2. 研究結果サマリー

Vitality 会員へのアンケート調査の結果、回答者の約 8割の方において「健康に対する意識の向上」や「運動量の増加」といった行動変容が確認され、「生活の質 (QOL) の向上を実感している」ことが示されました。

Vitality 健康プログラムは、日々の健康増進活動をポイント化し、週次・月次・年次の目標達成に応じて特典 (リワード) や保険料割引を付与するといった、行動経済学に基づくインセンティブ設計を備えています。

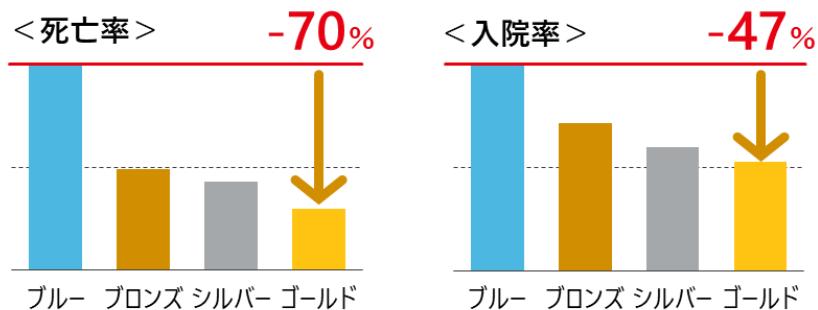
こうした仕組みが、健康増進活動の継続や自己効力感の向上につながっていると考えられます。

＜図 1 : Vitality 加入後の変化 (回答数の割合) ＞^{※3}



さらに、Vitality ステータス^{※4}を分析したところ、Vitality 健康プログラムに積極的に取り組んでいる会員は、死亡率・入院率が相対的に低い傾向が認められました。

＜図 2 : Vitality 会員のステータス別の死亡率・入院率 (ブルーを 100 とした指数) ＞^{※5}



これらの結果から、Vitality 健康プログラムは、健康に対する意識や行動、生活の質（QOL）といった自己評価に基づく主観的ウェルビーイングの向上と、健康アウトカムの改善の双方につながる可能性があることが示唆されました。

※3 住友生命によるアンケート調査結果（住友生命職員を除く）。2022年、2023年、2024年の回答数はそれぞれ47,865人、43,802人、51,250人。

※4 詳細は右記URLをご覧ください。<https://vitality.sumitomolife.co.jp/about/insurance/>

※5 2018年9月（Vitality 提供開始）から2023年3月以前にご加入いただいた Vitality 保険契約の、2023年4月～2024年3月の支払実績（死亡率は死亡保険金（災害死亡を除く）の支払件数、入院率は入院給付金（手術・災害入院を除く）の支払日数）を元に算出。死亡率、入院率の対象件数（経過件数）はそれぞれ約97万件、約80万件。

3. 今後の展望

住友生命は、Vitalityを中心としたリスクを予防する行動変容のサポートや、ウェルビーイングに寄与するサービスの提供を進めてきました。2025年度からはスマセイWX（ウェルビーイング・トランスフォーメーション）と題して、データに基づいたウェルビーイング価値の可視化などを通じて、お客さまのウェルビーイング実感を高める「顧客体験価値の変革」を取り組んでいます。

今回の採録を契機として、実務を通じて蓄積されたデータや知見を学術界とも共有し、その成果を社会に活かすことで、社会全体のウェルビーイング向上に貢献していくとともに、ウェルビーイングに貢献するサービスの提供を通じて、「なくてはならない」生命保険会社の実現を目指していきます。

以上